

宮城県商工地区中小企業景況調査報告書

2025 年 4 月～6 月期

目 次

1. 県下産業全体の景況……………	2
(1) 主要景況項目のあらまし……………	2
(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし……………	3
(3) 今後の見通しについて……………	4
2. 県下産業別の景況……………	5
(1) 製造業の動向……………	5
(2) 建設業の動向……………	8
(3) 小売業の動向……………	11
(4) サービス業の動向……………	14

2025 年 9 月

宮 城 県 商 工 会 連 合 会

中小企業景況調査報告書

2025 年 4 月～6 月

[調 査 要 領]

1. 調 査 対 象

- (1) 対 象 地 区 宮城県内 10 商工会地区
(調査対象商工会名) 名 取 市 商 工 会 、 大 河 原 町 商 工 会 、 み や ぎ 仙 台 商 工 会 、
利 府 松 島 商 工 会 、 く ろ か わ 商 工 会 、 加 美 商 工 会 、
大 崎 商 工 会 、 若 柳 金 成 商 工 会 、 み や ぎ 北 上 商 工 会 、
石 巻 か ほ く 商 工 会
- (2) 対 象 企 業 数 1 5 0 企 業
- (3) 回 答 企 業 数 1 4 9 企 業

2. 調査対象期間

2025 年 4 月～6 月期を対象として、調査時点は 2025 年 6 月 1 日とした。

3. 調 査 方 法

- (1) 商工会の経営指導員による訪問面接調査。
- (2) 対象企業の抽出は、商工会に於いて、業種・規模等有意選定。

4. 回答企業内訳

業 種	企 業 数
製 造 業	3 1
建 設 業	2 3
小 売 業	4 2
サービス業	5 3
合 計	1 4 9

5. そ の 他

本報告書中の D I とは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（上昇・好転）企業割合と減少（低下・悪化）企業割合の差を示すものである。

1. 県下産業全体の景況

(1) 主要景況項目のあらまし

① 業況D I の状況と来期見通し

県下商工会地区における今期（2025 年 4 月～6 月期）の調査において、産業全体（全産業）の業況D I（前年同期との比較D I、以下同じ）は、前期と比べ△30.4（前期△45.3）で 14.9 ポイントの改善となった。産業別では、製造業が△16.7（前期△56.3）で 39.6 ポイントの改善、建設業は△34.8（前期△33.3）で△1.5 ポイントの悪化、小売業は△59.5（前期△52.4）で△7.1 ポイントの悪化、サービス業では△13.2（前期△38.0）と 24.8 ポイントの改善となった。

来期見通しでは、製造業、建設業で改善する一方、小売業で横ばい、サービス業では悪化する見通しとなっている。

表－1 業況D I の状況と来期見通し（前年同期比・D I）

業 種	前 期	今 期	来期見通し
全 産 業	△ 45.3	△ 30.4	△ 30.4
製 造 業	△ 56.3	△ 16.7	△ 6.6
建 設 業	△ 33.3	△ 34.8	△ 26.1
小 売 業	△ 52.4	△ 59.5	△ 59.5
サービス業	△ 38.0	△ 13.2	△ 22.7

② 設備投資の状況と来期計画

新規投資の実施比率は、製造業は 9.7%で前期比△2.8 ポイント減少、建設業が 8.7%で前期比 0.4 ポイントの増加、小売業では 14.3%で前期比 12.0 ポイントの増加、サービス業でも 15.1%で前期比 7.1 ポイントの増加となった。

来期に設備投資を計画している企業は、今期に比べて製造業、小売業、サービス業で減少する一方、建設業で増加する見通しとなっている。

表－2 設備投資の状況と来期計画（企業割合・%）

業 種	前 期	今 期	来期計画
製 造 業	12.5	9.7	6.5
建 設 業	8.3	8.7	13.0
小 売 業	2.3	14.3	9.5
サービス業	8.0	15.1	13.2

(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし

① 売上額（完成工事額）

2025年6月調査の日銀短観で、「中小企業の業況判断指数（D I）は前期（2025年3月調査）と比較し、「製造業が1ポイント低下しプラス1、非製造業でも1ポイント低下しプラス15と小幅悪化の見込み。堅調なインバウンド需要や家計の所得環境の改善が下支えとする一方で、米関税引き上げによる業績悪化への懸念や、人手不足、物価高が重石となり景況感を下押しする見通し」と発表された。

宮城の今期売上額（完成工事額）D Iは、前期との比較では製造業、建設業、小売業で改善、サービス業で悪化となった。

今期の宮城の全国・東北との売上額D I比較では、製造業で全国・東北以上、建設業、小売業で全国・東北以下、サービス業で全国以下・東北以上であった。

表－3 売上額（完成工事額）の状況 (前年同期比・D I)

区 分 業 種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 15.1	△ 8.5	△ 25.4	△ 10.3	△ 53.1	△ 3.3
建 設 業	△ 14.4	△ 11.7	△ 34.5	△ 23.7	△ 43.5	△ 30.5
小 売 業	△ 25.5	△ 18.2	△ 42.2	△ 35.5	△ 51.2	△ 40.5
サービス業	△ 12.4	△ 3.2	△ 22.5	△ 12.3	△ 6.0	△ 7.5

② 採 算

宮城の今期の採算D Iは、前期との比較で建設業、小売業で悪化、製造業、サービス業で改善となった。

今期の宮城の全国・東北との採算D I比較では、全産業で全国・東北以下という結果となった。

表－4 採算の状況 (前年同期比・D I)

区 分 業 種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 26.3	△ 22.9	△ 33.0	△ 23.4	△ 56.3	△ 26.6
建 設 業	△ 25.2	△ 20.3	△ 39.3	△ 36.4	△ 37.5	△ 39.2
小 売 業	△ 37.0	△ 32.1	△ 54.2	△ 48.0	△ 60.5	△ 61.0
サービス業	△ 31.2	△ 21.9	△ 43.3	△ 32.5	△ 53.1	△ 35.9

(3) 今後の見通しについて

① 県下産業全般の主要項目来期見通し

宮城の売上額（完成工事額）来期見通しD I（2025 年 7 月～9 月期）では、今期状況D I との比較で、製造業が 3.3 ポイント、建設業で 0.1 ポイント、小売業で 2.4 ポイントの改善、サービス業で△2.0 ポイントの悪化の見通しとなった。

採算来期見通しD I では、今期状況D I との比較では、製造業で横ばい、建設業で 8.8 ポイントの改善、小売業では△2.4 ポイント、サービス業で△1.9 ポイント悪化の見通しとなった。

② 全国と本県企業の来期見通し比較

今期と来期見通しとの比較において、製造業では売上は全国・宮城で改善、採算では全国で改善、宮城で横ばいの見通し。建設業では売上は全国で悪化、宮城で改善、採算では全国で悪化、宮城で改善の見通し。小売業では売上が全国で悪化、宮城で改善、採算では全国で改善、宮城で悪化の見通し。サービス業では売上が全国・宮城で悪化、採算では全国で改善、宮城で悪化の見通しとなった。

表－5 売上額（完成工事額）の状況と見通し（前年同期比・D I）

区 分 業 種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製 造 業	△ 8.5	△ 5.6	△ 3.3	0.0
建 設 業	△ 11.7	△ 16.2	△ 30.5	△ 30.4
小 売 業	△ 18.2	△ 22.2	△ 40.5	△ 38.1
サービス業	△ 3.2	△ 4.2	△ 7.5	△ 9.5

表－6 採算の状況と見通し（前年同期比・D I）

区 分 業 種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製 造 業	△ 22.9	△ 17.3	△ 26.6	△ 26.6
建 設 業	△ 20.3	△ 22.6	△ 39.2	△ 30.4
小 売 業	△ 32.1	△ 30.6	△ 61.0	△ 63.4
サービス業	△ 21.9	△ 19.6	△ 35.9	△ 37.8

2. 県下産業別の景況

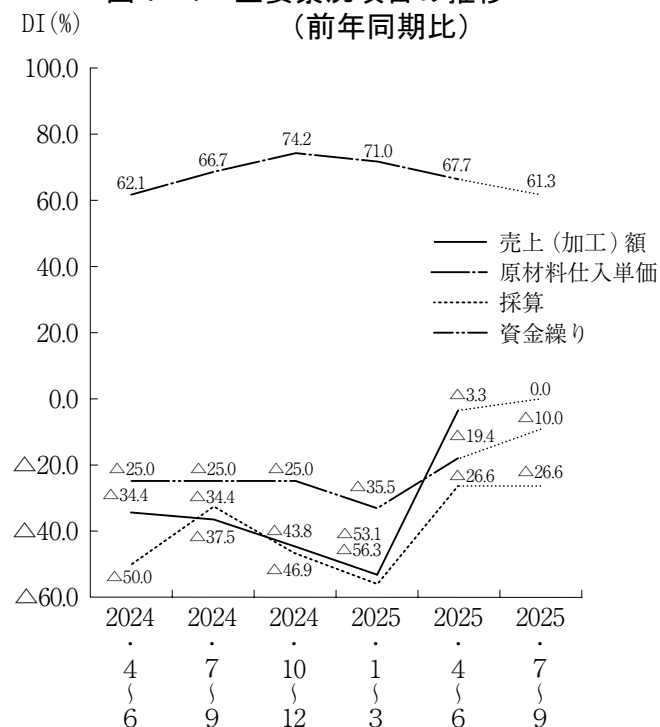
(1) 製造業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

前年同期比D Iは、売上（加工）額D Iが今期△3.3（前期△53.1）となり前期比49.8ポイント改善、採算D Iでは今期△26.6（前期△56.3）で29.7ポイント改善、資金繰りD Iでも今期△19.4（前期△35.5）で16.1ポイントの改善となった。

原材料仕入単価は今期67.7（前期71.0）と△3.3ポイントの減少となった。

図1-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



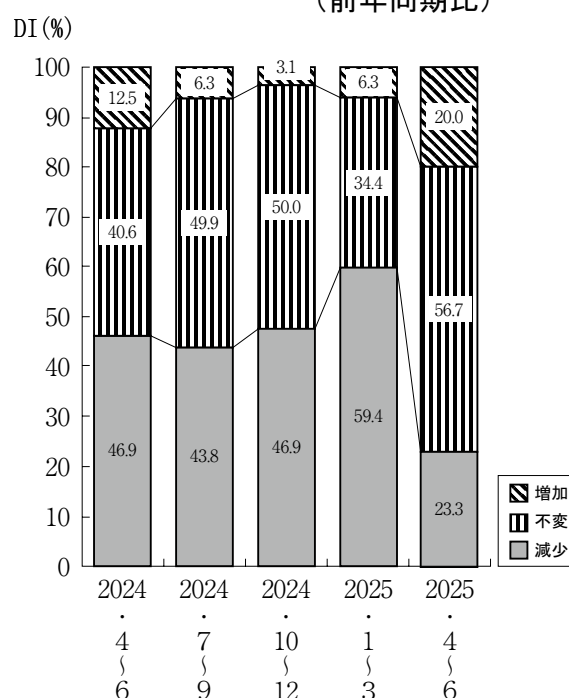
② 主要景況項目別状況

(a) 売上（加工）額

「増加」と回答した企業は、全体の20.0%（前期6.3%）で13.7ポイントの増加、「減少」と回答した企業は23.3%（前期59.4%）で△36.1ポイント減少した。

その結果、売上（加工）額D Iは△3.3（前期△53.1）となり、前期比49.8ポイントの改善となった。

図1-2 売上（加工）額の状況
(前年同期比)

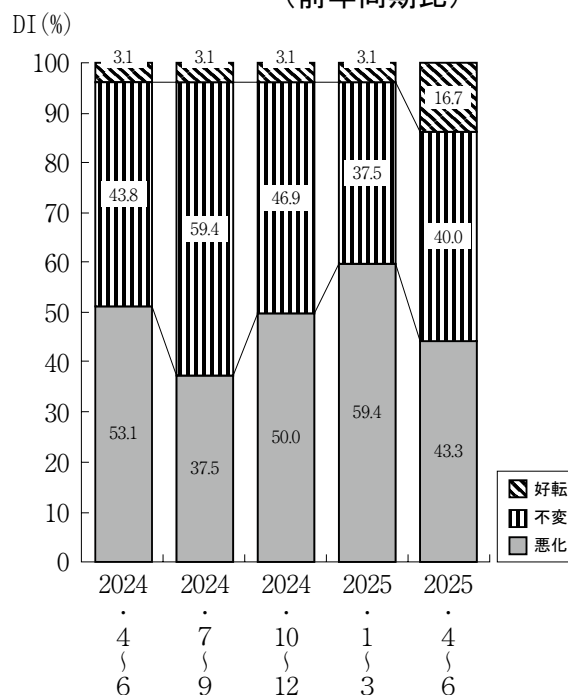


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の16.7%(前期3.1%)で13.6ポイント増加、「悪化」と回答した企業は43.3%(前期59.4%)で△16.1ポイント減少した。

その結果、採算D Iは△26.6(前期△56.3)で29.7ポイントの改善となった。

図1-3 採算の状況
(前年同期比)



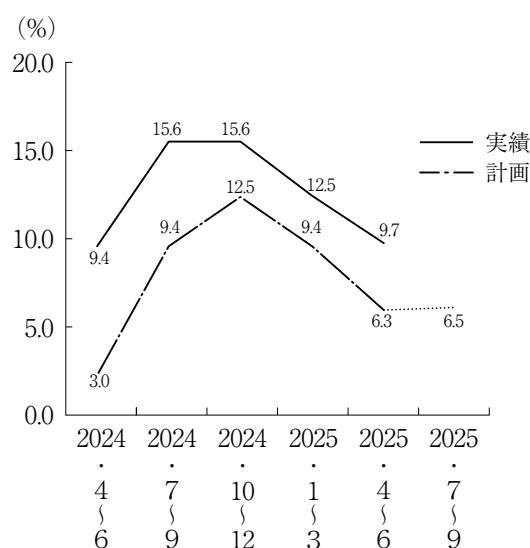
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施(実績)企業割合は全体の9.7%(前期12.5%)で前期と比べ△2.8ポイント減少した。

その設備内容は、生産設備、車両・運搬具、付帯施設であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の6.5%で、その設備内容は、生産設備、OA機器となっている。

図1-4 設備投資の状況

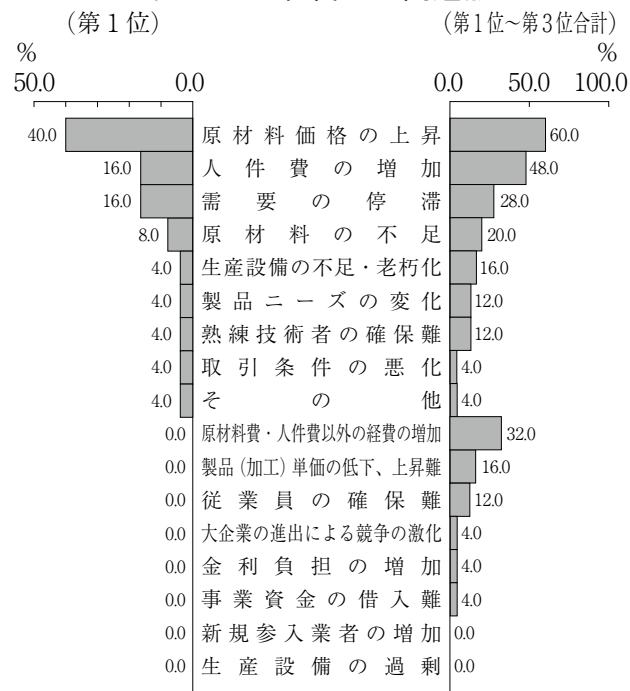


(d) 経営上の問題点

重要度第 1 位の問題点は「原材料価格の上昇」で 40.0%、次いで「人件費の増加」「需要の停滞」が同率 16.0%で続いた。

重要度第 1 位から第 3 位合計では「原材料価格の上昇」が 60.0%（複数回答合計、以下同じ）で最上位、次いで「人件費の増加」が 48.0%、「原材料費・人件費以外の経費」が 32.0%、「需要の停滞」が 28.0%、「原材料の不足」が 20.0%、「生産設備の不足・老朽化」「製品（加工）単価の低下、上昇難」が同率 16.0%、「製品ニーズの変化」「熟練技術者の確保難」「従業員の確保難」が同率 12.0%で続いた。

図 1-5 経営上の問題点



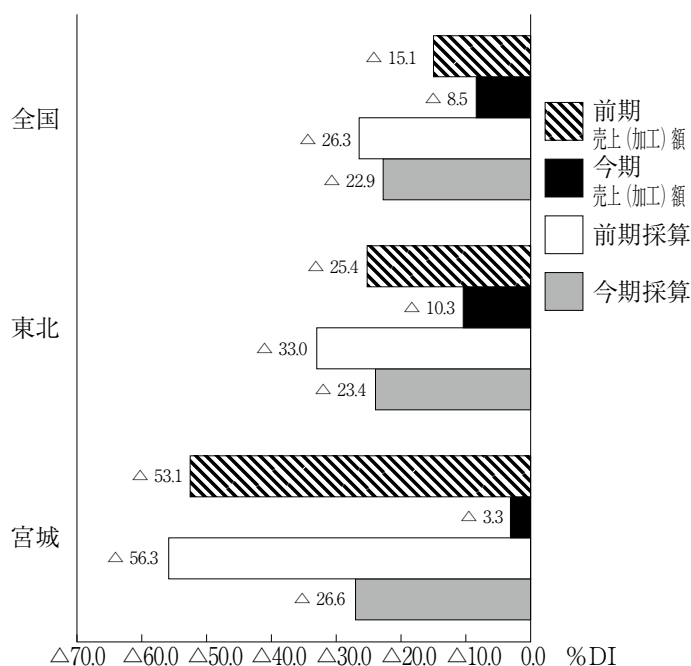
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期との比較で、売上（加工）額D I は全地域（全産業）で改善となった。その改善度は宮城、東北、全国の順であった。

採算D I でも全地域（全産業）で改善。その改善度は宮城、東北、全国の順であった。

本県回答事業者からは、「米価の高止まりや物価高騰等の影響もあり、リフォームの引合い件数も少なく感じる」（畳製造）、「原材料の米の確保難と価格の上昇に苦慮している」（酒造）、「虫歯予防対策への取組みへの強化の流れに伴い、補綴費など技工料金の値上げが難しい現状である」（歯科技工）、などのコメントが寄せられた。

図 1-6 全国東北宮城売上（加工）額・採算比較（前年同期比）



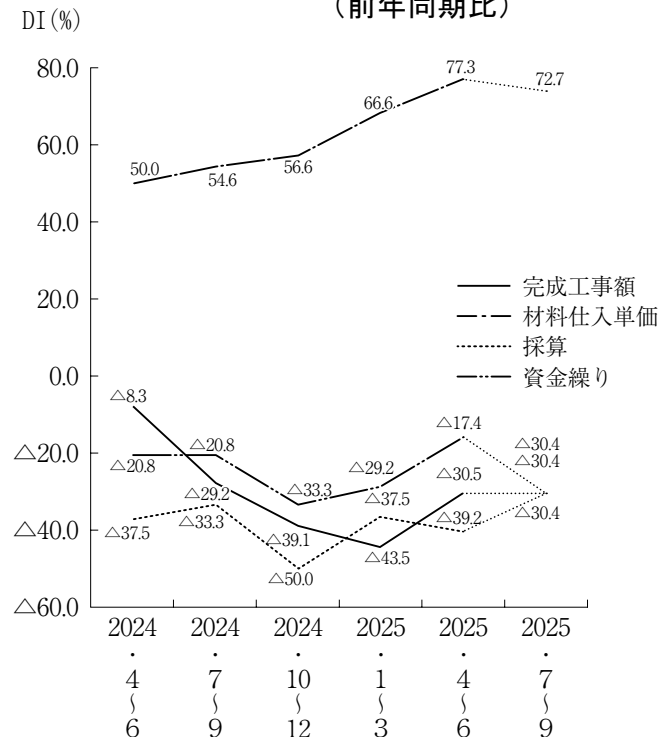
(2) 建設業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

完成工事（請負工事）額D Iは今期△30.5（前期△43.5）となり前期比 13.0 ポイント改善、採算D Iでは今期△39.2（前期△37.5）で△1.7 ポイント悪化、資金繰りD Iでは今期△17.4（前期△29.2）で 11.8 ポイントの改善となった。

材料仕入単価D Iは今期 77.3（前期 66.6）と 10.7 ポイントの増加となった。

図 2-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



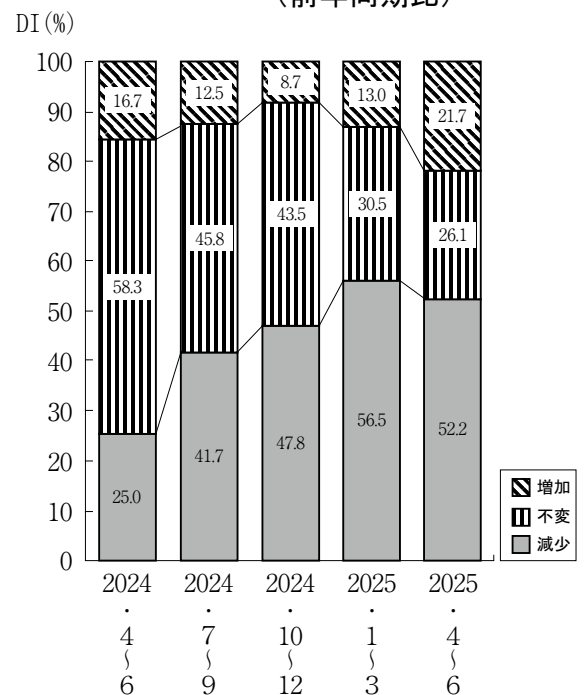
② 主要景況項目別状況

(a) 完成工事（請負工事）額

「増加」と回答した企業は全体の 21.7%（前期 13.0%） 8.7 ポイント増加、「減少」と回答した企業は 52.2%（前期 56.5%）で△4.3 ポイント減少した。

その結果、完成工事（請負工事）額D Iは△30.5（前期△43.5）となり、前期比 13.0 ポイントの改善となった。

図 2-2 完成工事額の状況
(前年同期比)

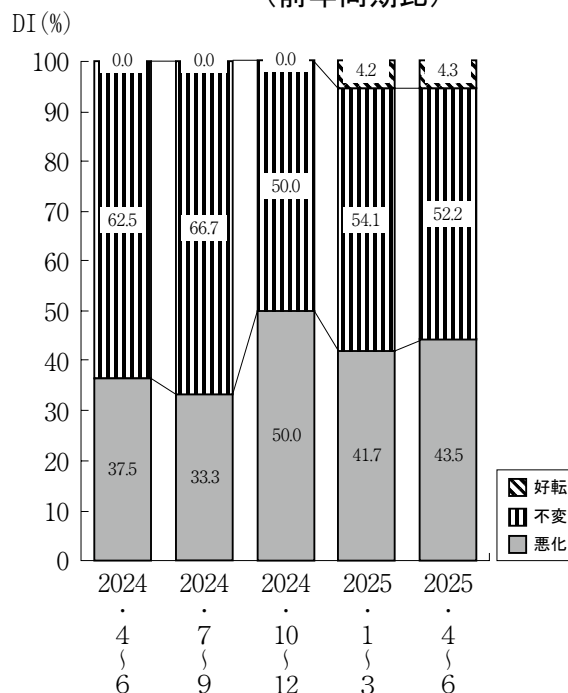


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の 4.3%（前期 4.2%）で 0.1 ポイント増加、「悪化」と回答した企業は全体の 43.5%（前期 41.7%）で 1.8 ポイント増加した。

その結果、採算 D I は△39.2（前期△37.5）となり△1.7 ポイントの悪化となった。

図 2-3 採算の状況
（前年同期比）



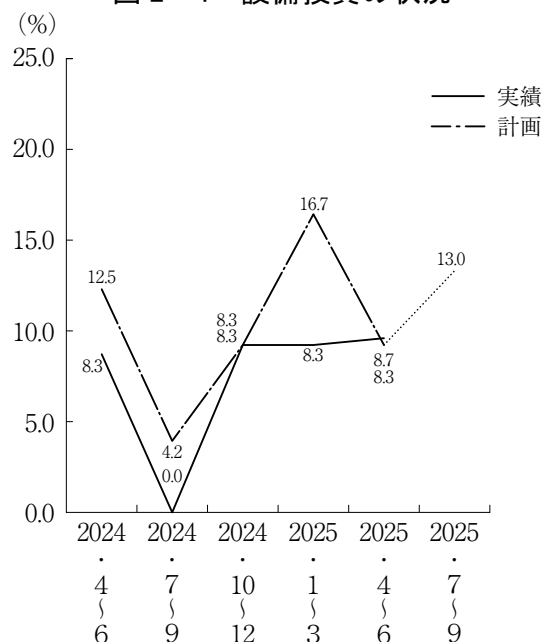
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は全体の 8.7%（前期 8.3%）で前期と比べ 0.4 ポイント増加した。

その設備内容は、土地、建設機械、車両・運搬具であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の 13.0%で、その設備内容は、土地、建設機械、車両・運搬具、OA機器となっている。

図 2-4 設備投資の状況

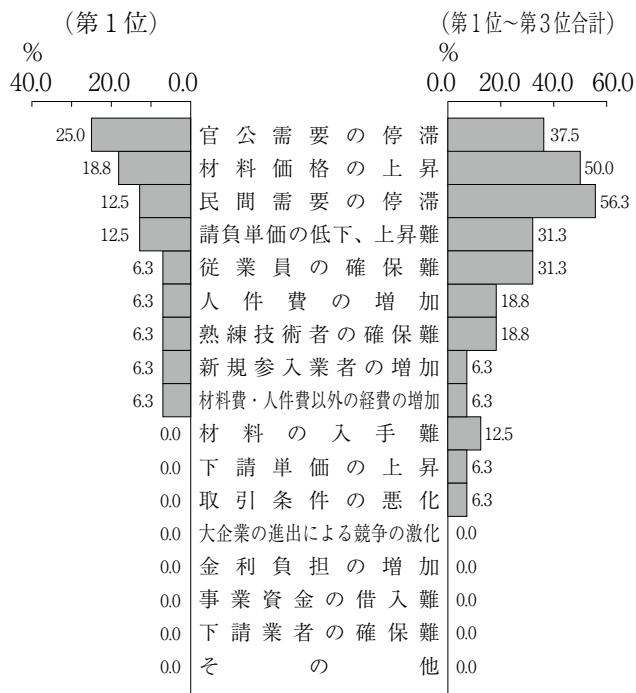


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は「官公需要の停滞」が25.0%、次いで「材料価格の上昇」が18.8%、「民間需要の停滞」「請負単価の低下、上昇難」が同率12.5%で続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「民間需要の停滞」が56.3%（複数回答合計、以下同じ）で最上位、次いで「材料価格の上昇」が50.0%、「官公需要の停滞」が37.5%、「請負単価の低下、上昇難」「従業員の確保難」が同率31.3%、「人件費の増加」「熟練技術者の確保難」が同率18.8%、「材料の入手難」が12.5%、「新規参入業者の増加」「材料費・人件費以外の経費の増加」「下請単価の上昇」「取引条件の悪化」が同率6.3%で続いた。

図2-5 経営上の問題点



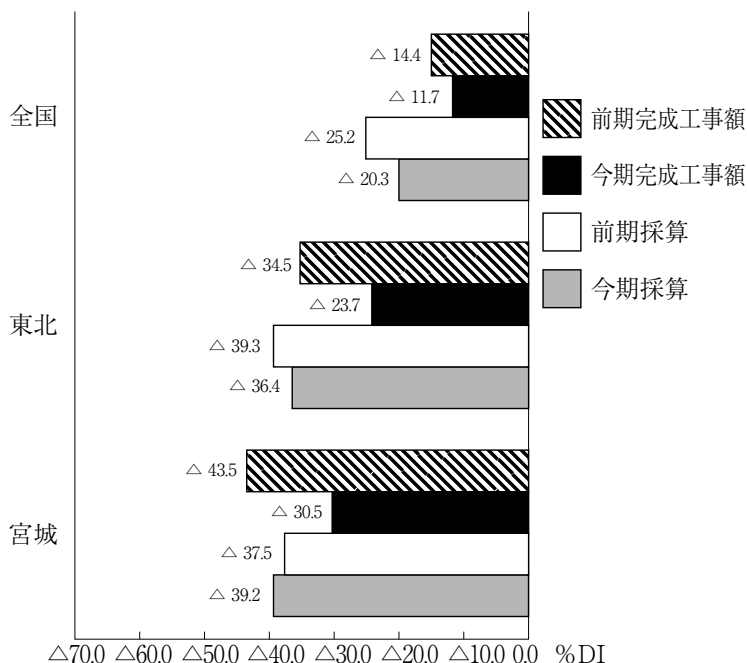
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期との比較では、完成工事額D Iは全地域（全産業）で改善となった。その改善度は宮城、東北、全国の順であった。

採算D Iでは全国、東北で改善、宮城で悪化となった。

本県回答事業所からは、「公共工事の減少により、元請からの引合いがない」（土木）、「材料価格の上昇、納期の長期化で引合い及び受注件数が伸び悩んでいる」（電気工事）、「年々工事の減少に加え、新規参入業者の増加で受注確保難が懸念される」（外構工事）、などのコメントが寄せられた。

図2-6 全国東北宮城完成工事額・採算比較（前年同期比）



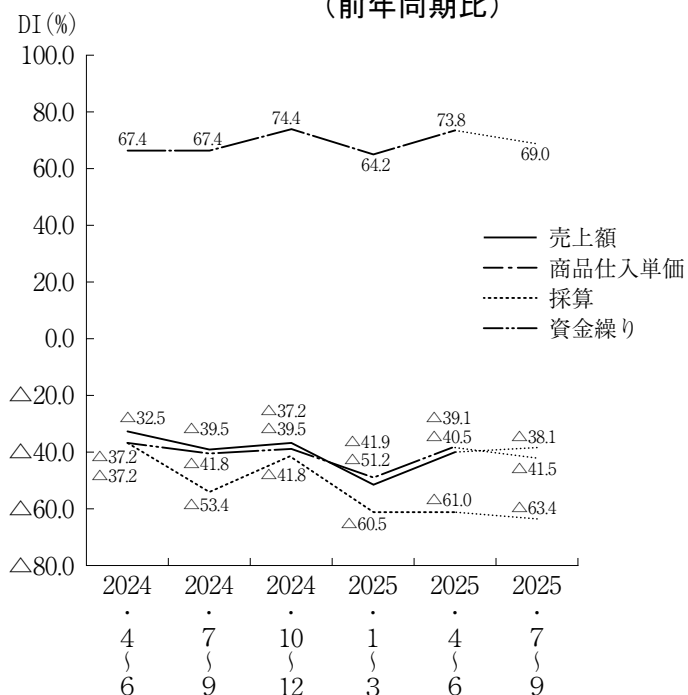
(3) 小売業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上額D I は今期△40.5 (前期△51.2) ととなり前期比 10.7 ポイント改善、採算D I では今期△61.0 (前期△60.5) で△0.5 ポイント悪化、資金繰りD I では今期△39.1 (前期△41.9) で 2.8 ポイント改善した。

商品仕入単価D I は今期 73.8 (前期 64.2) で 9.6 ポイントの増加となった。

図 3-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



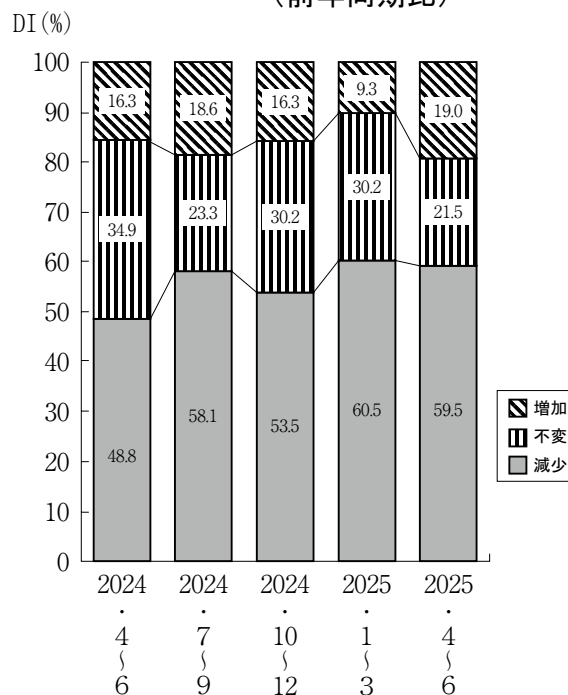
② 主要景況項目別状況

(a) 売上額

「増加」と回答した企業は、今期は全体の 19.0% (前期 9.3%) で 9.7 ポイント増加、「減少」の回答は、今期は全体の 59.5% (前期 60.5%) で△1.0 ポイント減少した。

その結果、売上額D I は今期△40.5 (前期△51.2) と前期より 10.7 ポイントの改善となった。

図 3-2 売上額の状況
(前年同期比)

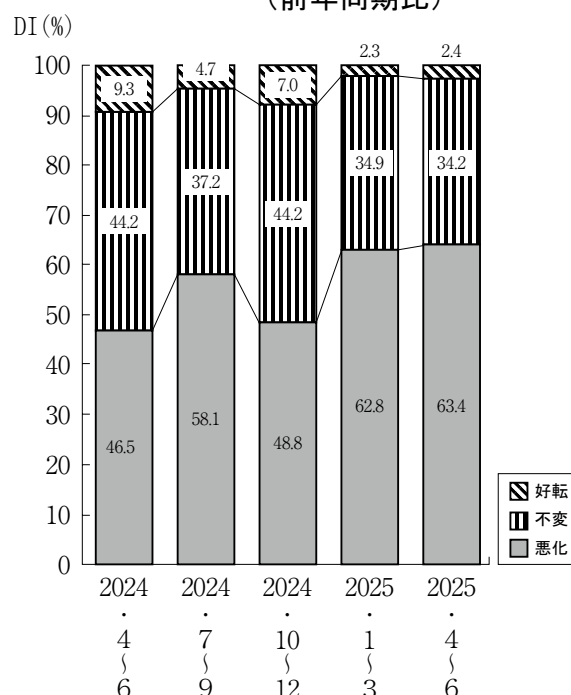


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は、今期は全体の2.4%（前期2.3%）で0.1ポイント増加、「悪化」の回答は、今期は全体の63.4%（前期62.8%）で0.6ポイント増加した。

その結果、採算D Iは今期△61.0（前期△60.5）となり△0.5ポイントの悪化となった。

図 3-3 採算の状況
(前年同期比)



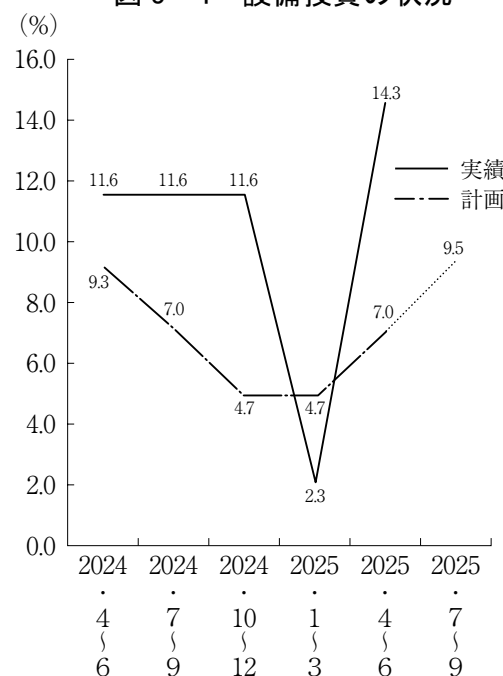
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は、今期は全体の14.3%（前期2.3%）で前期と比べ12.0ポイント増加した。

その設備内容は、販売設備、車両・運搬具、OA機器であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の9.5%で、その設備内容は、販売設備、付帯施設、OA機器となっている。

図 3-4 設備投資の状況

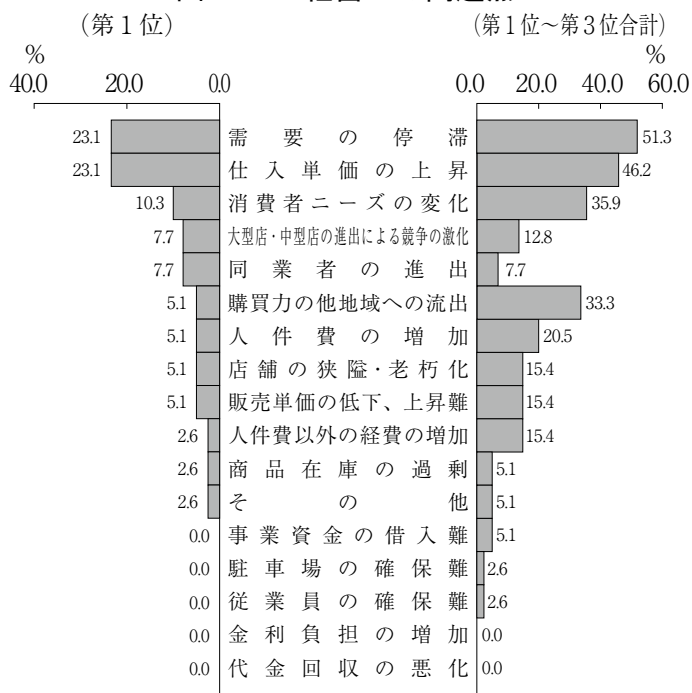


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「需要の停滞」「仕入単価の上昇」が同率23.1%、次いで「消費者ニーズの変化」が10.3%で続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「需要の停滞」が51.3%（複数回答合計、以下同じ）で最上位、次いで「仕入単価の上昇」が46.2%、「消費者ニーズの変化」が35.9%、「購買力の他地域への流出」が33.3%、「人件費の増加」が20.5%、「店舗の狭隘・老朽化」「販売単価の低下、上昇難」が同率15.4%、「大型店・中型店の進出による競争の激化」が12.8%、「同業者の進出」が7.7%で続いた。

図3-5 経営上の問題点



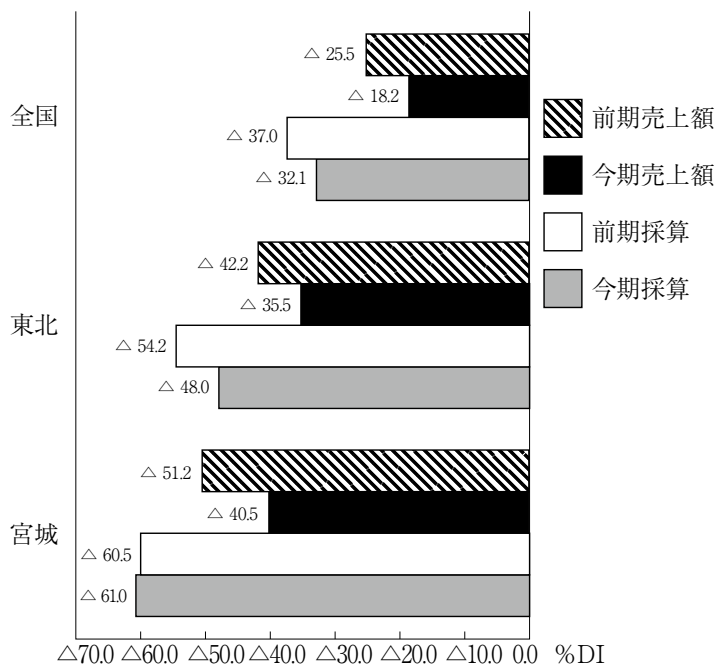
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期との比較では、売上D Iは全地域（全産業）で改善となった。その改善度は宮城、全国、東北の順であった。

採算D Iでは全国、東北で改善、宮城で悪化となった。

本県回答事業所からは、「前年同期と比べ単価の高い商品の動きがあった」（身の回り品）とする一方で、「客単価減少、大口予約減少、原材料高騰でも価格の見直しは難しい」（食料品）、「価格転嫁による購買意欲への影響が懸念、人件費の増加など利益確保に苦慮」（食料品）、「新たな販売チャネルの開拓を検討」（生花）、などのコメントが寄せられた。

図3-6 全国東北宮城売上額・採算比較（前年同期比）



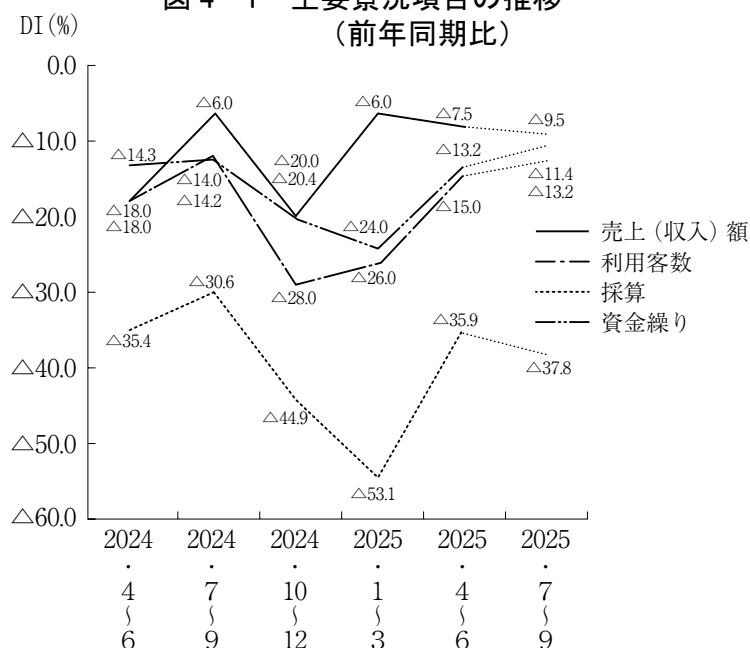
(4) サービス業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上（収入）額DIは今期△7.5（前期△6.0）となり前期比△1.5ポイント悪化、採算DIは今期△35.9（前期△53.1）で17.2ポイント改善、資金繰りDIでは、今期△13.2（前期△24.0）で10.8ポイント改善した。

利用客数DIは、今期△15.0（前期△26.0）で11.0ポイント改善した。

図4-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



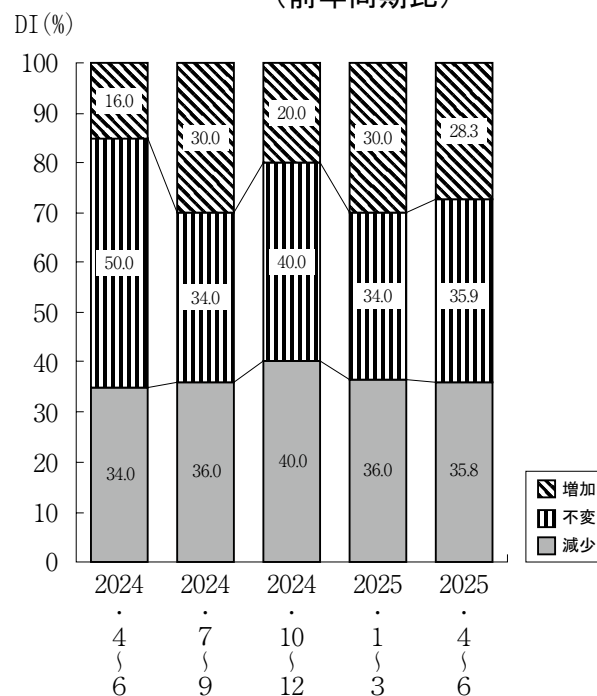
② 主要景況項目別状況

(a) 売上（収入）額

「増加」と回答した企業は、今期は全体の28.3%（前期30.0%）で前期より△1.7ポイント減少、「減少」の回答は今期35.8%（前期36.0%）で△0.2ポイント減少した。

その結果、売上（収入）額DIは今期△7.5（前期△6.0）で、前期より△1.5ポイントの悪化となった。

図4-2 売上（収入）額の状況
(前年同期比)

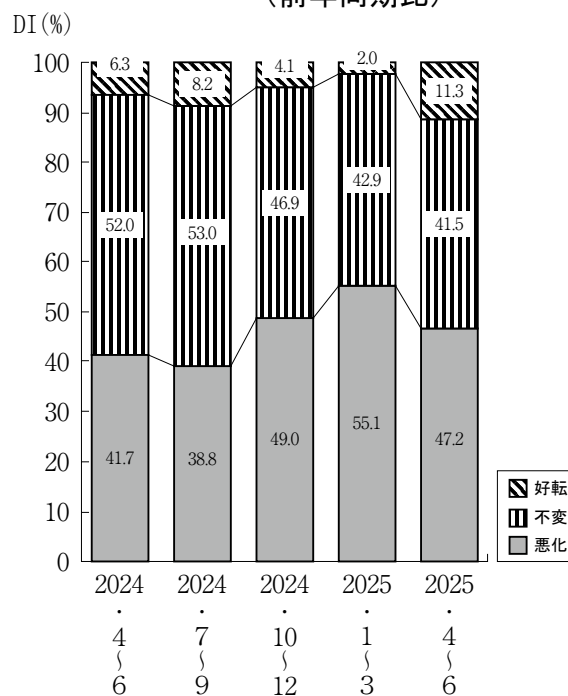


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は、今期は全体の11.3%（前期2.0%）で9.3ポイント増加、「悪化」と回答した企業は今期47.2%（前期55.1%）で△7.9ポイント減少した。

その結果、採算D Iは今期△35.9（前期△53.1）で前期より17.2ポイントの改善となった。

図 4-3 採算の状況
（前年同期比）



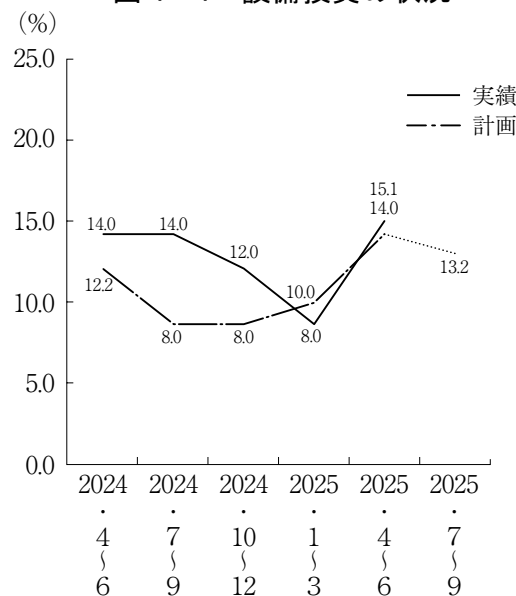
(c) 設 備 投 資

今期新規投資を実施（実績）した企業は全体の15.1%（前期8.0%）で、前期と比べ7.1ポイント増加した。

その設備内容は、土地、建物、サービス、付帯施設であった。

来期に設備計画している企業割合は全体の13.2%で、その設備内容は、土地、建物、サービス、車両・運搬具、OA機器となっている。

図 4-4 設備投資の状況

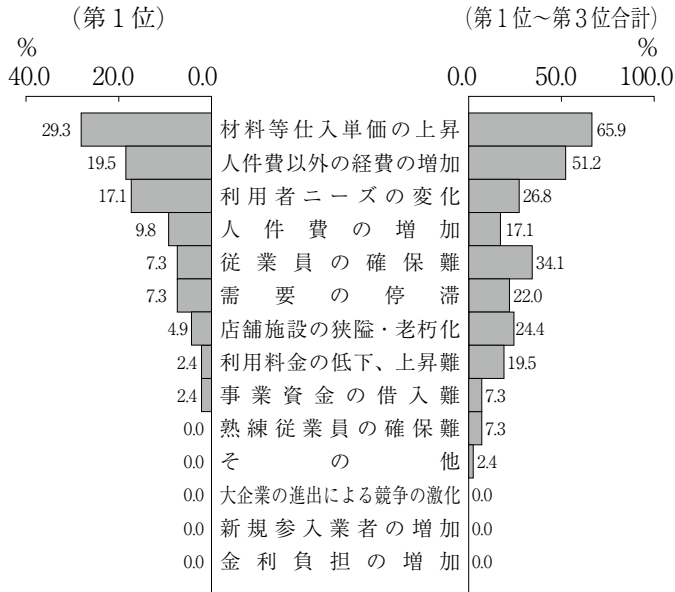


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「材料等仕入単価の上昇」が29.3%、次いで「人件費以外の経費の増加」が19.5%、「利用者ニーズの変化」が17.1%であった。

重要度第1位から第3位合計では「材料等仕入単価の上昇」が65.9%（複数回答合計、以下同じ）で最上位、次いで「人件費以外の経費の増加」が51.2%、「従業員の確保難」が34.1%、「利用者ニーズの変化」が26.8%、「店舗施設の狭隘・老朽化」が24.4%、「需要の停滞」が22.0%、「利用料金の低下、上昇難」が19.5%、「人件費の増加」が17.1%、「事業資金の借入難」「熟練従業員の確保難」が同率7.3%で続いた。

図4-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期との比較で売上DIは、全国、東北で改善、宮城で悪化となった。

採算DI比較では全地域（全産業）で改善。その改善度は宮城、東北、全国の順であった。

本県回答事業所からは、「移転、設備投資により業績が好転した」（美容業）とする一方、「価格転嫁により売上増となったが、仕入価格も上昇したため今後の収支が不安」（飲食業）、「物価高騰もあり客足減少、仕入先の見直しも考える必要がある」（飲食業）、「2024年問題の影響による機会ロスが発生している」（運送業）、などのコメントが寄せられた。

図4-6 全国東北宮城売上（収入）額・採算比較（前年同期比）

